

新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する10の知識

2020年10月29日、新型コロナウイルス感染症に関する現在の状況とこれまでに得られた科学的知見について、新たに10の知識としてとりまとめました。

新型コロナウイルス感染症の発生をさらに抑えるためには、1人ひとりが最新の知識を身につけて正しく対策を行っていただくことが何よりも重要です。

ぜひご観下さい。

・ [\(2021年2月時点\) 新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識](#) (※2021年3月5日掲載 (変異株の内容については3月9日更新))

(2021年2月時点) 新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識

新型コロナウイルス感染症の患者数・病原性

1. 日本では、どれくらいの人が新型コロナウイルス感染症と診断されていますか。
2. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人や死亡する人はどれくらいですか。
3. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのはどんな人ですか。
4. 海外と比べて、日本で新型コロナウイルス感染症と診断された人の数は多いですか。

新型コロナウイルス感染症の感染性

5. 新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させる可能性がある期間はいつまでですか。
6. 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの人が他の人に感染させていますか。
7. 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。

新型コロナウイルス感染症に対する検査・治療

8. 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査にはどのようなものがありますか。
9. 新型コロナウイルス感染症はどのようにして治療するのですか。
10. 接種の始まった新型コロナワクチンはどのようなワクチンですか。今後どのように接種が進みますか。

新型コロナウイルスの変異株

11. 新型コロナウイルスの変異について教えてください。

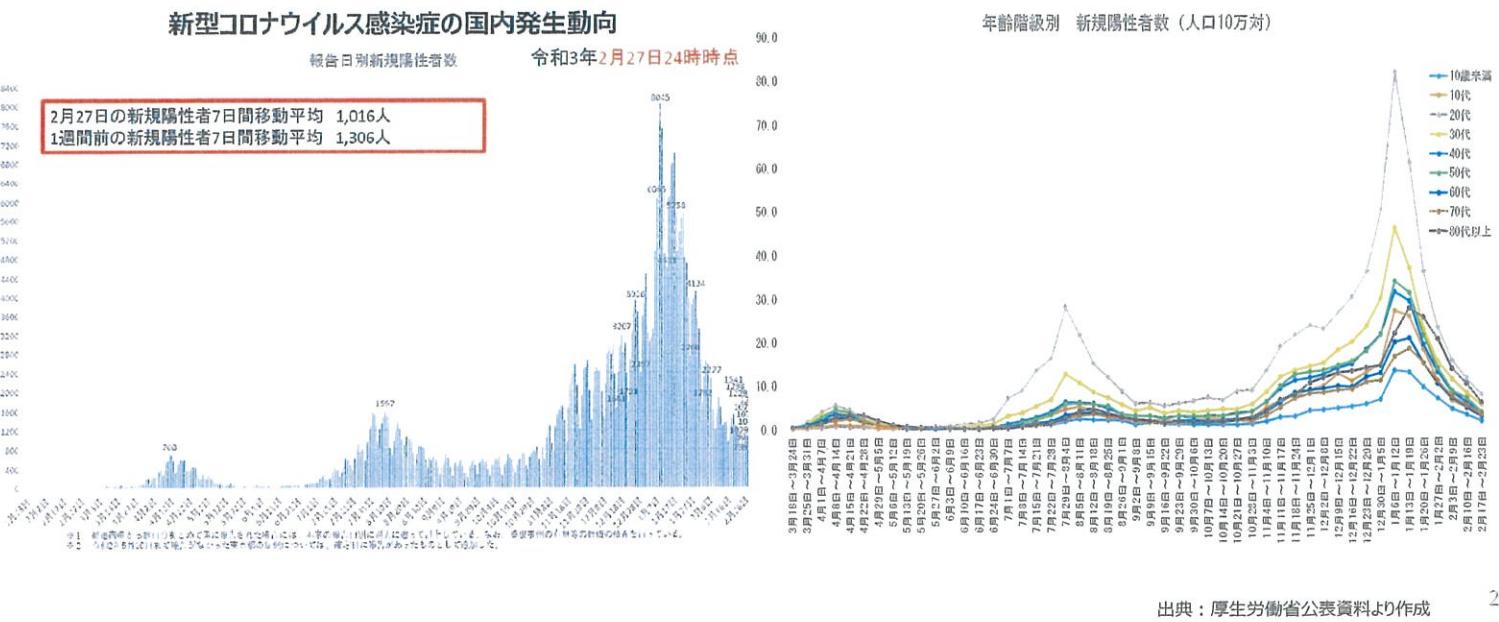
Q 日本では、これまでにどれくらいの人が新型コロナウイルス感染症と診断されていますか。

A 日本では、これまでに**431,740人**が新型コロナウイルス感染症と診断されており、これは全人口の**約0.3%**に相当します。国内の発生状況などに関する最新の情報は、以下のリンクをご参照ください：

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

※ 感染していても症状が現れず医療機関を受診しない人などがいるため、必ずしも感染した人すべてを表す人数ではありません。

※ 人数は2021年2月28日0時時点



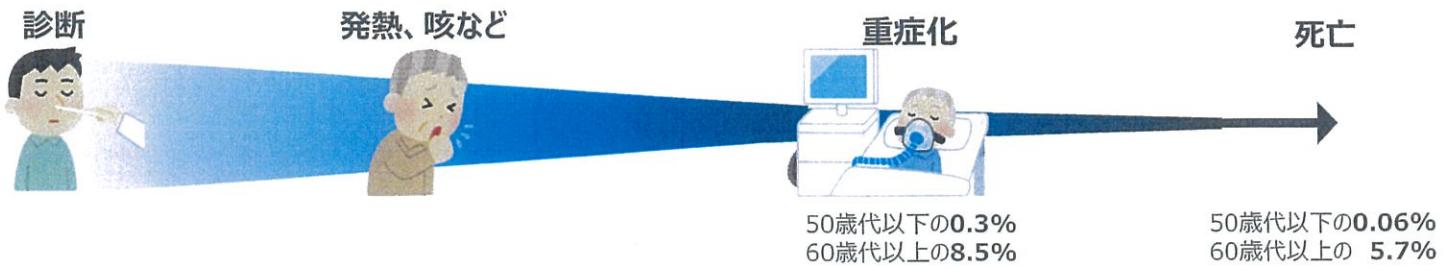
Q 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人や死亡する人はどれくらいですか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化する人の割合や死亡する人の割合は**年齢によって異なり**、**高齢者は高く、若者は低い傾向**にあります。

重症化する割合や死亡する割合は以前と比べて低下しており、6月以降に診断された人の中では、

- ・重症化する人の割合は 約1.6%（50歳代以下で0.3%、60歳代以上で8.5%）
- ・死亡する人の割合は 約1.0%（50歳代以下で0.06%、60歳代以上で5.7%）となっています。

※「重症化する人の割合」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例（無症状を含む）のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合。



診断された人のうち、重症化する割合 (%)											
年代(歳)	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	計
6-8月	0.09	0.00	0.03	0.09	0.54	1.47	3.85	8.40	14.50	16.64	1.62
1-4月	0.69	0.90	0.80	1.52	3.43	6.40	15.25	26.20	34.72	36.24	9.80

診断された人のうち、死亡する割合 (%)											
年代(歳)	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	計
6-8月	0.00	0.00	0.01	0.01	0.10	0.29	1.24	4.65	12.00	16.09	0.96
1-4月	0.00	0.00	0.00	0.36	0.61	1.18	5.49	17.05	30.72	34.50	5.62

Q 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、重症化しやすいのはどんな人ですか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患のある方です。

重症化のリスクとなる基礎疾患等には、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満、喫煙があります。

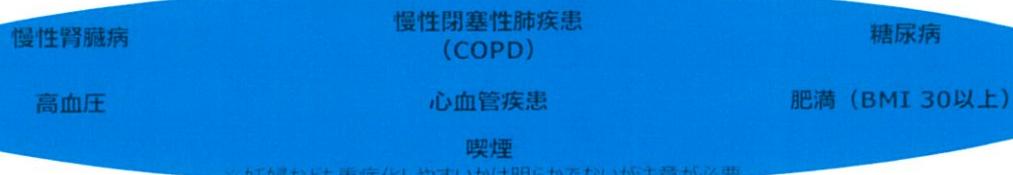
また、妊婦なども、重症化しやすいかは明らかでないものの、注意が必要とされています。

30歳代と比較した場合の各年代の重症化率

年代	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
重症化率	0.5倍	0.2倍	0.3倍	1倍	4倍	10倍	25倍	47倍	71倍	78倍

※「重症化率」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例（無症状を含む）のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合。

重症化のリスクとなる基礎疾患

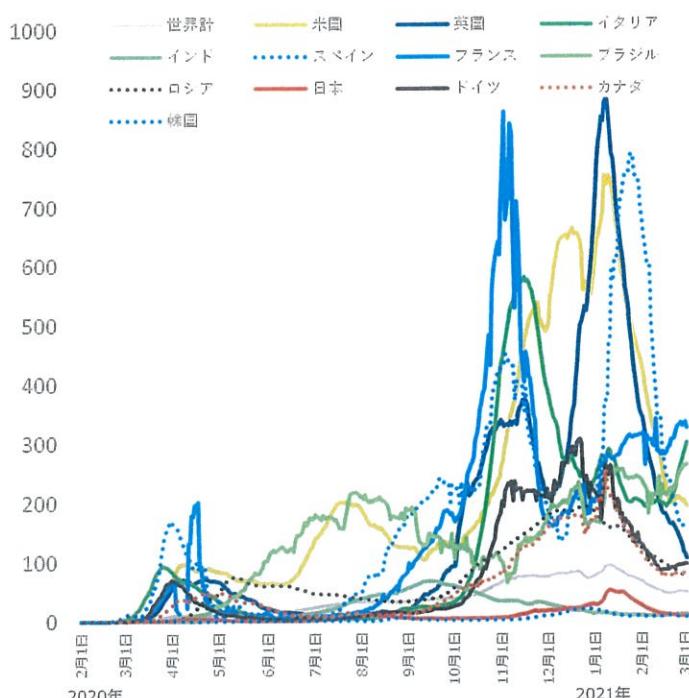


出典：京都大学西浦教授提供データ及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4.2版に基づき厚生労働省にて作成

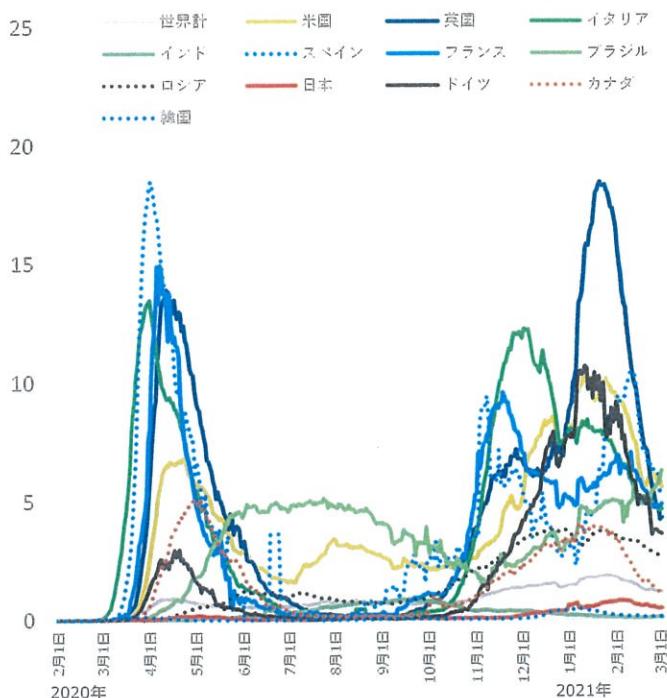
Q 海外と比べて、日本で新型コロナウイルス感染症と診断されている人の数は多いのですか。

A 日本の人口当たりの感染者数、死者数は、全世界の平均や主要国と比べて低い水準で推移しています。

人口100万人当たりの新規感染者数



人口100万人当たりの新規死者数



Q 新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させてしまう可能性がある期間はいつまでですか。

A 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させてしまう可能性がある期間は、**発症の2日前から発症後7～10日間程度**とされています。※

また、この期間のうち、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなると考えられています。

このため、新型コロナウイルス感染症と診断された人は、**症状がなくとも、不要・不急の外出を控えるなど感染防止に努める必要があります**。

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4.2版より

Q 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの人が他の人に感染させていますか。

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、**他の人に感染させているのは2割以下で、多くの人は他の人に感染させていない**と考えられています。

このため、感染防護なしに3密（密閉・密集・密接）の環境で多くの人と接するなどによって**1人の感染者が何人もの人に感染させてしまうことがなければ、新型コロナウイルス感染症の流行を抑えることができます**。

体調が悪いときは不要・不急の外出を控えることや、人と接するときにはマスクを着用することなど、新型コロナウイルスに感染していた場合に多くの人に感染させることのないように行動することが大切です。

※ マスクの着用により、感染者と接する人のウイルス吸入量が減少することがわかっています。（布マスクを感染者が着用した場合に60-80%減少し、感染者と接する人が着用した場合に20-40%減少。）

Ueki, H., Furusawa, Y., Iwatsuki-Horimoto, K., Imai, M., Kabata, H., Nishimura, H., & Kawaoka, Y. (2020). Effectiveness of Face Masks in Preventing Airborne Transmission of SARS-CoV-2. *mSphere*, 5(5), e00637-20.

6

Q 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。

A 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、3密（密閉・密集・密接）の環境で感染リスクが高まります。

このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要です。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。
- また、聴覚が鈍敏し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、屋カラオケなどの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狹い空間での共同生活

- 狹い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 着の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



Q 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査にはどのようなものがありますか。

A 新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の体内にウイルスが存在し、ウイルスに感染しているかを調べるための検査です。

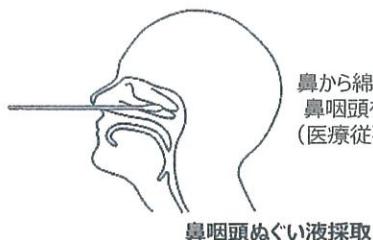
新たな検査手法の開発により、検査の種類や症状に応じて、鼻咽頭ぬぐい液だけでなく、唾液や鼻腔ぬぐい液を使うことも可能になっています。

なお、抗体検査は、過去に新型コロナウイルス感染症にかかったことがあるかを調べるものであるため、検査を受ける時点で感染しているかを調べる目的には使えない。

検査の対象者	PCR検査 (LAMP法含む)			抗原検査 (定量)			抗原検査 (定性)		
	鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液	鼻咽頭	鼻腔	唾液
有症状者	発症から 9 日目以内	○	○	○	○	○	○	○※1	○※1
	発症から 10 日目以降	○	○	×	○	○	×	△※2	△※2
無症状者	○	×	○	○	×	○	×	※3	※3

※1 発症2日目から9日目以内に使用 ※2 隠性の場合は必要に応じてPCR検査等を実施。※3 確定診断としての使用は推奨されないが、結果が陰性の場合でも感染予防策を継続することを要件の下で、感染拡大地域の医療機関や高齢者施設等において幅広く検査を実施する際にスクリーニングに使用することは可能。

検体採取の例 (抗原定性検査、鼻咽頭ぬぐい液と鼻腔ぬぐい液の場合)



鼻から綿棒を2cm程度挿入し、
5回転させ、5秒程度静置
(自己採取も可)

～図は～女性雑誌提供

○ 新型コロナウイルス感染症はどのようにして治療するのですか。

A 軽症の場合は経過観察のみで自然に軽快することが多く、必要な場合に解熱薬などの対症療法を行います。

呼吸不全を伴う場合には、酸素投与やステロイド薬（炎症を抑える薬）・抗ウイルス薬※¹の投与を行い、改善しない場合には人工呼吸器等による集中治療を行うことがあります※²。

こうした治療法の確立もあり、新型コロナウイルス感染症で入院した方が死亡する割合は低くなっています。

発熱や咳などの症状が出たら、まずは身近な医療機関に相談してください。

※1 新型コロナウイルス感染症の治療として承認を受けている抗ウイルス薬として、国内ではレムデシビルがあります。（2021年2月28日時点）
※2 集中治療を必要とする方または死亡する方の割合は、約1.6%（50歳代以下で0.3%、60歳代以上で8.5%）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4.2版より抜粋・一部改変

入院した症例に対する薬物治療の状況と死亡する割合（COVID-19 レジストリ研究解析結果^{※4)}

- ・特に入院時に重症であった症例において、新型コロナウイルス感染症に適応のあるレムデシビルやステロイド薬の投与割合が増加。
 - ・入院時軽症/中等症例・重症例とともに、いざれの年代においても入院後に死亡する割合が低下。

入院時軽症/中等症例

		5/31までに入院した症例	6/1-12/31に入院した症例
薬物治療の状況※6	レムデシビル	0.4%	13.9%
	ステロイド薬(シクロソニドを除く)	6.9%	40.3%
入院後に死亡する割合	0-29歳	0.0%	0.0%
	30-49歳	0.2%	0.1%
	50-69歳	1.3%	0.3%
	70歳-	9.7%	5.7%
	全年齢	2.4%	1.3%

入院時重症例※5

		5/31までに入院した症例	6/1-12/31に入院した症例
薬物治療の状況	レムデシビル	1.3%	39.2%
	ステロイド薬 (シクロソルを除く)	26.0%	74.1%
入院後に死亡する割合	0-29歳	1.9%	0.0%
	30-49歳	1.3%	0.6%
	50-69歳	9.1%	3.7%
	70歳-	30.0%	17.3%
	全年齢	17.1%	9.8%

*4 厚生労働科学研究「COVID-19に関するレジストリ研究」（研究代表者：大曲貴夫）において、2月15日までにレジストリに登録のあった入院症例を解析。

④ フラフロウドバイル、COVID-19に因る肺レントゲン写真
⑤ 入院時に酸素投与、人工呼吸器管理、SpO₂ 94%以下、呼吸数24回/分以上15%のいずれかに該当する場合に入院時重症と分類。

※6 COVID-19の治療目的で薬物投与を行った症例における割合。ステロイド薬については、入院以前からCOVID-19の治療以外の目的で使用していた場合は除く。

Q 接種の始まった新型コロナワクチンはどのようなワクチンですか。今後どのように接種が進みますか。

○ワクチンの特徴について

ファイザー社の開発したワクチンで、メッセンジャーRNAワクチンという種類のワクチンです。
通常、3週間あけて2回接種します。

○ワクチンの有効性について

新型コロナウイルス感染症を予防する効果があります。
接種を受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した（熱が出たり、せきが出たりすること）人が少ないということがわかっています。（発症予防効果は95%と報告されています。）

○ワクチンの安全性について

接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱などが見られることがあります。こうした症状の大部分は数日以内に回復しています。
また、海外で、まれな頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関すぐに治療を行うことになります。

○今後の接種の進め方について

接種を行う期間は、令和3年2月17日から令和4年2月末までの予定です。

最初は、医療従事者等への接種が順次行われます。その後、高齢者、基礎疾患有する方等の順に接種を進めていく見込みです。なお、高齢者への接種は、一部の市町村で4月12日に開始される見込みです。当初は実施する市町村や接種する人数が限られており、順次拡大していきます。

10

Q 新型コロナウイルスの変異について教えてください。

A 現在、従来よりも感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株^(※1)や、ワクチンが効きにくい可能性のある変異株が世界各地で報告されています。

日本では、変異株のクラスターが複数報告され、海外とのつながりがない事例も継続して確認されていますが、地域で広く流行している状況ではありません。

厚生労働省では、新型コロナウイルスのゲノムを解析し、変異の状況を監視しています。世界保健機関（WHO）や専門家とも情報交換を行い、こうした変異の分析・評価を行うとともに、国内の監視体制を強化しています。また、変異株事例が確認された場合には、検査や積極的疫学調査を強化して、封じ込めを図っています。

個人の基本的な感染予防策は、変異株であっても、**3密（特にリスクの高い5つの場面）の回避、マスクの着用、手洗いなど**が、これまでと同様に有効です。国民の皆様には、改めて感染予防対策へのご協力をお願いいたします。

※1 英国の専門家会議の見解によると、従来よりも感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株は、子どもが大人よりも感染しやすいということではなく、どの年齢であっても感染しやすい可能性があると報告されています。

（参考）一般的にウイルスは流行していく中で少しずつ変異を起こしていきます。この変異したウイルスが変異株です。変異が起こると性質の変化が起こり、感染しやすくなる場合等があります。新型コロナウイルスについても、約2週間で1カ所程度の速度で変異していると考えられています。

11

医療機関で準備するもの

- 冷蔵庫
- 予診等で使う物品
 - ・医療従事者用のマスク
 - ・医療従事者用の使い捨て手袋
 - ・使い捨て舌圧子
 - ・体温計
- 接種に用いる物品
 - ・希釈に用いる注射針及びシリンジ
 - ・消毒用アルコール綿
 - ・トレイ
 - ・医療用廃棄物容器、針捨て容器
 - ・手指消毒剤
- 救急用品
- 事務用品

国又はワクチンメーカーが提供するもの

- ワクチン配送と同時に送付
- ワクチン
- ワクチンに付属する書類（添付文書等）
- 希釈用生理食塩水
- 接種用の注射針(25G)
- シリンジ（1ml、2ml、2.5mlなど）
- ドライアイス
 - ※超低温冷凍庫のない基本型接種施設
- 事前に設置・送付
- 超低温冷凍庫
 - ※自治体が指定した施設
- ドライアイスの詰替え用の物品（手袋、ゴーグル、スコップ）

0

接種の実務

受付

- ・窓口に来た接種希望者の接種券と予診票を確認し、それぞれに記載された氏名等と、本人確認書類（運転免許証、被保険者証等）の内容を確認し、本人確認を行う。
- ・接種希望者は、原則、住民票所在地の市町村において接種を受けることになる。
 - ※基礎疾患を有する者がかかりつけ医で接種する場合は他市町村でも接種できる。
 - ※近接する複数市町村で一体となって接種体制を構築する場合は、同一市町村とみなす。

予診

- ・接種を行う前に、問診・検温・必要な診察を行い、予防接種を受けることが適当でない者又は予防接種の判断を行うに際して注意を要する者に該当するか否かを調べる。

接種後

- ・予診票に、接種券のシールと、ワクチン名・ロット番号のシールを貼付する。
- ・予診票の写し（コピー）を医療機関において保管する。
- ・接種が終わった後、アナフィラキシーや血管迷走神経反射等の症状が生じることがあるため、接種後に接種会場において一定期間観察を行う。

4. 接種実施医療機関等の検索及び予約受付状況の見える化について

- コロナワクチン接種総合案内サイト「コロナワクチンナビ」(公開サイト)では、
・居住地でワクチン接種を受けられる医療機関はどこにあるのか、どのワクチンを扱っているのか
・その医療機関の現在の予約受付状況
といった情報を提供する。

接種予約できる医療機関等の探し方

The image shows the 'Corona Vaccine Navigation' website interface. It consists of three main panels:

- ①都道府県を選択**: A dropdown menu for selecting a prefecture. A yellow arrow points from the 'Prefecture Selection' section to the 'Search Vaccination Site' section.
- ②市町村を選択**: A dropdown menu for selecting a city or town. A blue arrow points from the 'City/Town Selection' section to the 'Search Vaccination Site' section.
- ③市町村内の接種医療機関等を探す**: A list of vaccination sites. A red box highlights the search filters on the left, which include checkboxes for 'Prefecture selection only' and 'Search by name or postal code'. Another red box highlights the 'Details' link next to each site entry.

Annotations provide additional information:

- Yellow box: '各自治体のホームページページに、該当自治体ページをリンクできる' (Links to the homepage of each local government).
- Blue box: 'どの医療機関で現在予約受付可能か一目でわかる' (You can see at a glance which medical institutions are currently accepting reservations).
- Red box: '医療機関名や郵便番号の絞り込みも可能' (You can filter by medical institution name or postal code).
- Red box: '[+] を開くと、各医療機関の詳細情報（予約方法、お知らせ等）を明記している' (When you open [+], it will display detailed information about each medical institution, such as reservation methods and notices).

※全て現時点の画面イメージであり、今後変更予定です。

1

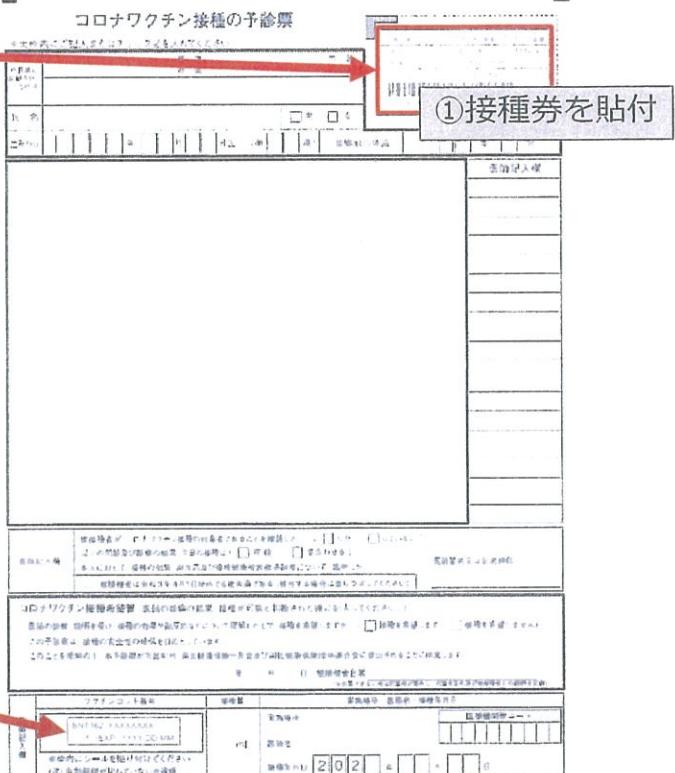
接種券・予診票

- ・接種希望者が持参する接種券と予診票のイメージを以下に示す。

接種希望者が持参する接種券等のイメージ



予診票のイメージ

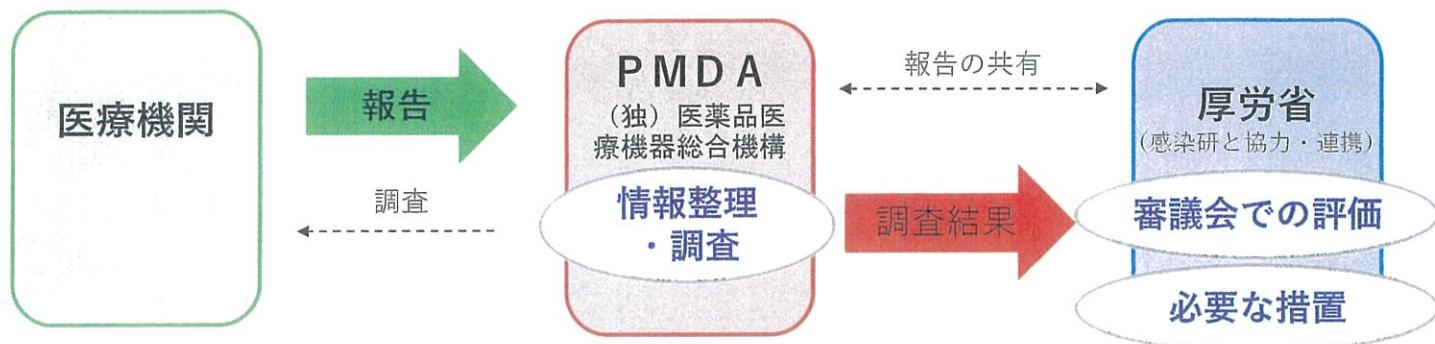


メーカーが提供するシールのイメージ

副反応疑い報告制度における報告と評価の流れ

- 予防接種法において、副反応疑い報告の仕組みが設けられており、国は、接種後に生じる副反応を疑う症状を収集するとともに、これらを厚生科学審議会に報告し、その意見を聴いて、予防接種の安全性に関する情報を提供するなど、接種の適正な実施のために必要な措置を講ずることとなっている。
- 新型コロナウイルスワクチンについては、予防接種法上の接種（臨時接種）として実施されるため、通常の定期接種と同様の流れで副反応の集計・評価を行う。
接種開始後、通常より高頻度で審議会を実施するとともに、必要があれば、緊急時にも開催して評価を行う。

副反応疑い報告制度における報告と評価の流れ



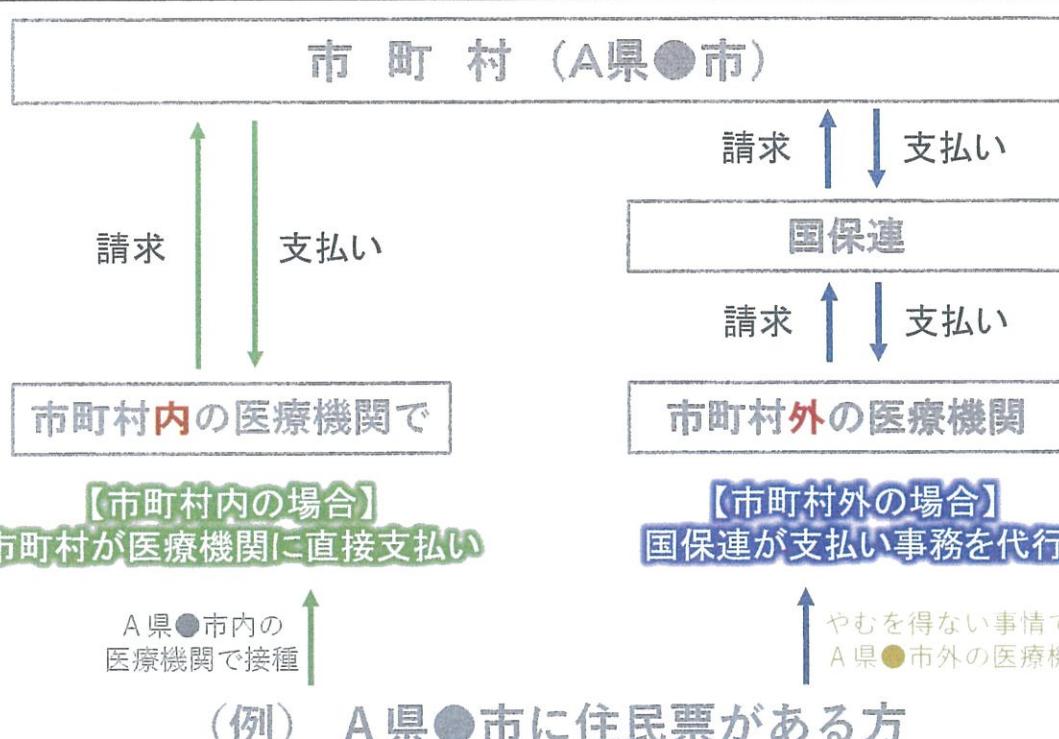
※1 副反応疑い報告は、医薬品医療機器等法に基づく副作用等報告としても取り扱われる。

※2 上記に加え、市町村が被接種者又は保護者から健康被害に関して相談を受けた場合には、都道府県を通じて厚生労働省に報告するルートもある。

0

新型コロナウイルスワクチン接種の費用の請求・支払の概要

- 住民が住所地内の医療機関で接種を受けた場合、医療機関は市町村に直接費用を請求・支払いする。
- 住民が住所地外の医療機関で接種を受けた場合、市町村の支払い事務を国保連が代行する。
- 市町村外の医療機関に対する支払いがなくなり、事務負担の軽減につながる。



※近接する複数市町村で一体となって接種体制を構築する場合は、市町村内とみなす。

0



心の健康を保つために

誰とも会わない、話さないという状況が続くと、気持ちがふさぎます。家で過ごす時間を充実させましょう。



電話やメールで、積極的な交流を



毎日の体調や運動メニューを記録して、達成感を



作ったことのない料理に挑戦



●周囲に元気のない人がいたら声をかけましょう

【気付きのチェックポイント】

- 立ち上がるのに時間がかかるようになった
- 歩くのが遅くなった
- ごはんの量が減った
- やわらかいものを好んで食べるようになった
- 外出している姿を見かけなくなった
- 身だしなみを気にしなくなった

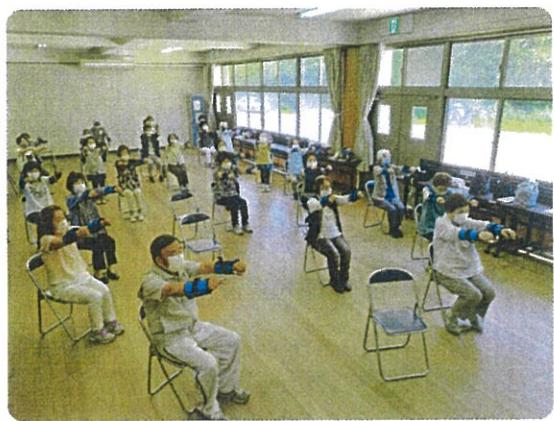
地域でサポートをするために

コロナ禍でも高齢者がいきいきと過ごすために、見守りやお宅訪問、通いの場の再開など、地域の皆さんのサポートも大切です。

通いの場を再開するときの留意事項

- 地域における流行状況を確認し、開催の可否や実施方法について検討する
- 参加者の体温や体調の確認を行い、記録する
- 参加者に手洗い、マスクの着用を呼びかける
- 3密を避け、人ととの距離を確保する
- 参加しなくなった方の把握や参加の呼びかけを行う

通いの場が再開したらぜひ行ってみましょう。



地域がいきいき



「集まろう! 通いの場」ウェブサイトでは、新型コロナウイルス感染症に気をつけて健康を維持するための情報を発信しています。

詳しくはこちら <https://kayoinoba.mhlw.go.jp/>

厚生労働省 通いの場 検索



健康ぶらざ

No.540

企画:日本医師会

子どもの予防接種はスケジュールどおりに受けましょう!

ワクチンデビューは生後2カ月からです

子どもの予防接種スタートは生後2カ月からです。

乳幼児の細菌性髄膜炎や肺炎、口タウイルス胃腸炎、B型肝炎を同時に接種することから始まります。

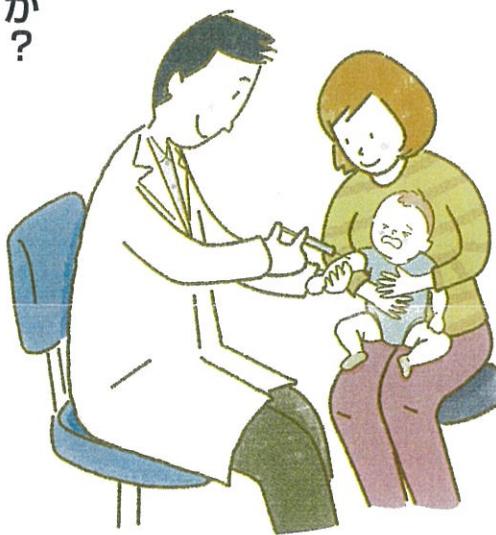
予防接種は、定められた時期に

接種することが

もっとも効果があります。

新型コロナウイルス感染症への
感染を警戒して、予防接種の

スケジュールが乱れていませんか?



安心して予防接種を受けるために

- ①かかりつけ医をもちましょう。
- ②生後2カ月から接種が始まられるように、あらかじめ予約をしておきましょう。
- ③予防接種を受ける時には、すべて予約を取りましょう。
医療機関では、他の患者さんと一緒にならないように時間と空間を分ける工夫がされています。
- ④できる限り同時接種で受けましょう。
異なるワクチンを同時に接種することが勧められています。
- ⑤かかりつけ医でワクチーンスケジュールを立ててもらいましょう。
- ⑥1歳で接種する麻疹・風疹混合ワクチンなども、時期をずらさず受けましょう。
- ⑦幼稚園・保育園の健診で接種漏れを指摘されたら、速やかに受けましょう。

予防接種で受診する時に、普段気になっていることも相談してみましょう。

指導:吉村小児科 院長 / 小石川医師会 副会長 内海 裕美

日本医師会ホームページでは、健康ぶらざのバックナンバーをご覧いただけます。



日医

バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマート
フォンでご利用になれます。